

とりまとめ総括

- ・医療需要のピークを勘案した将来の病床数の必要量と2025年に向けた医療機能ごとの病床数との比較では、病床総数は97床不足となるため、合意とする。
- ・定量的基準導入後の各医療機能の充足状況は、123床過剰となる急性期機能を除き不足となるため、合意とする。
- ・合意としない急性期病床については、毎年度、協議を繰り返していく中で合意を図っていくこととする。

2019年7月1日時点の医療機能ごとの病床数						
医療機関名	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・無回答等	計
鈴鹿中央総合病院	182	258	20			460
鈴鹿回生病院	111	212	56			379
鈴鹿病院				【220】 70		70
亀山市立医療センター		92				92
村瀬病院		60	98	60		218
塩川病院		42	15			57
白子ウィメンズホスピタル		29				29
高木病院				79		79
田中病院				79		79
亀山回生病院				76		76
医療法人なわて記念会 鈴木レディースクリニック		19				19
医療法人重幹会 川村外科内科		19				19
宮村産婦人科		16				16
みえ呼吸嚥下リハビリクリニック		14				14

2025年に向けた役割・医療機能ごとの病床数							
担うべき医療機関としての役割	医療機能ごとの病床数						介護保険施設等に移行
	高度急性期	急性期	地域急性期	回復期	慢性期	計	
急性期医療や政策医療に関する中心的な役割を担うとともに、地域がん診療連携拠点病院として、がん治療において中心的役割を担う。また、災害拠点病院として災害医療においても中心的役割を担う。 ☑救急 ☑小児 ☑周産期 ☑災害	29	(370)	61			460	
二次救急医療に対応できる中核病院として、急性期機能の充実・強化を図るとともに、回復期機能の確保にも取り組む。また、地域包括ケアシステムの構築に対しても、地域の関係機関と連携し、基幹病院としての役割をはたす。 ☑救急 ☐小児 ☐周産期 ☑災害	56	(267)	56			379	
重症心身障害者(児)及び筋ジストロフィーを含む神経難病医療に関する拠点病院として、早期診断から長期療養に係る医療を提供する慢性期機能を担う。					【220】 70	70	
急性期機能を担うとともに、回復期機能の確保に取り組む。また、医療、福祉及び介護の連携体制の構築に向けて、在宅連携システムを支える後方支援病院としての役割をはたす。 ☑救急 ☐小児 ☐周産期 ☑災害		(46)	44			90	
地域一般病棟、回復期リハビリテーション病棟、医療療養病棟のケアミックス病院として、地域連携医療を推進し、地域包括ケアシステムの構築に貢献する。			60	58	100	218	
三重先端医療PETセンター及び三重ガンマナイフセンターを併設し、悪性腫瘍の検査・治療を行うとともに、急性期を経過した患者の在宅復帰に向けた医療の提供や、介護施設入所者の急変時対応等の役割を担う。			42	15		57	
急性期医療機関として、地域の周産期医療を担う。	29					29	
急性期治療が終了した後の高度医療の継続が必要な慢性期患者を受け入れる役割を担う。					79	79	
慢性期機能を担うとともに、療養病床の一部を地域包括ケア病床に転換し、在宅復帰に向けた回復期機能も担う。			20		59	79	
急性期病院からの転院先として、慢性期医療を担う病院としての役割を果たす。					76	76	
産婦人科を標榜し、①専門医療を担って病院の役割を補完する機能、②緊急時に対応する機能を担う。			19			19	
肛門外科を標榜し、①病院からの早期退院患者の在宅・介護施設への受け渡し機能、②専門医療を担って病院の役割を補完する機能を担う。			19			19	
産婦人科を標榜し、①専門医療を担って病院の役割を補完する機能、②緊急時に対応する機能を担う。			16			16	
内科、呼吸器内科、リハビリテーション科を標榜し、①専門医療を担って病院の役割を補完する機能、②病院からの早期退院患者の在宅・介護施設への受け渡し機能、③緊急時に対応する機能、④在宅医療の拠点(後方支援病床)としての機能、⑤終末期医療を担う機能を担う。			14			14	

2019年7月1日時点の医療機能ごとの病床数						
医療機関名	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・無回答等	計
医療法人宮崎産婦人科		16				16
医療法人 平井医院						0
尾池整形外科		8				8
しまむら外科内科		4				4
やばせクリニック			19			19
西城外科内科			15			15
むらしま整形外科・リハビリテーション科			2			2
鈴鹿クリニック			1			1
川口整形外科				15		15
新田外科内科					7	7
計	293	789	226	379	7	1,694

※医療型障害児入所施設及び障がい者の療養介護を行う施設を除く

2025年に向けた役割・医療機能ごとの病床数							
担うべき医療機関としての役割	医療機能ごとの病床数						介護保険施設等に移行
	高度急性期	急性期	地域急性期	回復期	慢性期	計	
産婦人科を標榜し、①専門医療を担って病院の役割を補完する機能、②緊急時に対応する機能を担う。			16			16	
(休止のため報告対象外)							
整形外科を標榜し、①専門医療を担って病院の役割を補完する機能、②緊急時に対応する機能を担う。			8			8	
消化器内科(胃腸内科)、外科、肛門外科を標榜し、①緊急時に対応する機能、②在宅医療の拠点としての機能を担う機能を担う。			4			4	
リハビリテーション科、内科を標榜し、①病院からの早期退院患者の在宅・介護施設への受け渡し機能、②終末期医療を担う機能を担う。				19		19	
消化器外科(胃腸外科)、外科、内科を標榜し、①病院からの早期退院患者の在宅・介護施設への受け渡し機能、②緊急時に対応する機能、③在宅医療の拠点としての機能、④終末期医療を担う機能を担う。				15		15	
整形外科、リハビリテーション科を標榜し、①専門医療を担って病院の役割を補完する機能、②緊急時に対応する機能を担う。				2		2	
外科を標榜し、①専門医療を担って病院の役割を補完する機能、②在宅医療の拠点としての機能を担う。				1		1	
(2025年には病床を廃止予定)							
(これまで報告対象外(1年以内に廃止予定)であったところ、今回報告対象となったが、過去1年間に入院患者を収容しておらず、2025年の見込みも休棟であることから、病床維持の必要性について確認が必要)							
計	114	683	379	110	384	1,670	0

(計)

2025年の病床数の必要量	151	529	476	503	1,659
将来の病床の必要量(医療需要のピークを勘案)	159	560	522	526	1,767
将来の病床数の必要量と2025年に向けた医療機能ごとの病床数との差	-45	123	-33	-142	-97
協議を継続することとした病床数	0	683	0	0	683

参考:平成30年度

	医療機能ごとの病床数						介護保険施設等に移行
	高度急性期	急性期	地域急性期	回復期	慢性期	計	
2025年に向けた医療機能ごとの病床数	191	727	262	107	399	1,686	3
将来の病床数の必要量と2025年に向けた医療機能ごとの病床数との差	32	167	-153	-127	-81		